平成 28 年度札幌国際大学奨励研究費（共同研究）

一般社団法人北海道商工会議所連合会との人材育成に関する産学連携プロジェクト報告書
～企業・学生ニーズを中心に～

札幌国際大学　原一将、関憲治
札幌国際大学短期大学部　椿明美、小林純

Ⅰ　はじめに

2015（平成 27）年 4 月 2 日より、一般社団法人北海道商工会議所連合会と札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部（以下、本学）は、北海道における人材育成について積極的な連携・協力を行うことにより、北海道経済の成長と人材育成に寄与することを目的とし、人材育成に関する連携協定を締結した。この協定には、企業の人材ニーズに関する調査研究や学生にキャリア意識に関する調査研究、人材教育の現状・課題と新たな教育課程の設定に向けた意見交換の実施などの事項が含まれている。

この協定に基づき、北海道商工会議所連合会との共同事業二年目を迎えた今年度は、以下の 3 事業を実施した。各事業の概要と結果、実施後の考察を行った成果を報告する、

1　「社会人講座」の企画・運営

道内企業と学生を結びつけるための施策として、本学の講義において、社会人と学生の

トークセッションを中心とする、特別講義を実施した。前期・後期それぞれで実施した

が、昨年度の内容をさらにブラッシュアップさせ、より学生の興味を引く内容とした。

2　企業と大学の意見交換会

道内全域の商工会議所加盟企業 8 社を招き「大学教育への要望」「各社若手社員の近年の傾向」「インターンシップへの取り組み」等、多岐に渡るテーマで自由闊達な議論が交わされ、今後の本学キャリア支援活動に有益な示唆をいただく機会となった。

3　青森県就職市場調査

東北出身学生の中でも青森県出身の学生は、現在 46 名（平成 29 年 3 月現在）在籍している。卒業後は地元に U ターン就職したい学生がいるため、北海道商工会議所連合会の紹介で青森商工会議所を訪問し、就職市場調査を行った。

Ⅱ　研究概要・方法等

本研究の概要は以下のとおりである。

1　「社会人講座」の企画運営

昨年度は教室での開催だったが、今年度前期開催分に関しては、教室ではなくカフェテリア（学生食堂）での開催とした。「オープンな空間でフランクな雰囲気」が狙いである。小樽・石狩・滝川・帯広・恵庭・岩見沢の商工会議所から 10 社の若手経営者に来ていただき、一社 20 分のラウンド形式で、企業がテーブルを回るスタイルとした。参加学生の反応については別途報告とする。

2　企業と大学の意見交換会

「実務教育・キャリアの国際大学」を標榜する本学では、今期の就職活動解禁日を迎えるにあたり、北海道商工会議所連合会様との連携協定の一環として「大学と企業との意見交換会」を開催した。札幌・苫小牧・帯広の商工会議所から 8 社の経営者に来ていただき、「大学教育への要望」「各社若手社員の近年の傾向」「インターンシップへの取り組み」等、多岐に渡るテーマで自由闊達な議論が交わされ、今後の本学キャリア支援活動に有益な示唆をいただく機会となった。議論の内容は別途報告とする。

3　青森県市場調査

3 月 7 日（火）～9 日（木）の三日間、青森県を訪問し、採用市場調査を行った。訪問先は青森商工会議所、青森県中小企業家同友会、ジョブカフェあおもり、青森銀行、みちのく銀行である。北海道同様、数年ぶりに有効求人倍率が 1%を超えた同県でも学生の採用には苦戦している。仕事の煩雑化に伴い、これまでのように高校生でいいというわけではなく、大学生・短大生・専門学校生を採用したいという企業が増えている。なお、高校生の採用も以前のように楽ではない。

Ⅲ　調査結果等

1 「社会人講座」の企画・運営

昨年度に引き続き、二年目を迎えた「社会人講座」であるが、感想から読み取れる本学

学生の職業観は下記のとおりである。なお、対象学生は入学直後の慌ただしさが残る一年生ではなく、就職活動を目の前に控えた三年生でもない、大学二年生である。

・今回は若手経営者に来ていただいたが、「経営者」と会うことはもちろん、「現役の社会人」と会うことが初めてという学生が多かった。学生が知っている社会人は「アルバイト先の社員」「親」「教員」に限定されるケースが多く、学生の行動範囲の狭さが推測される。それゆえ、大学側でこのような講座を開催しない限り、学生が「現役の社会人」と知り合う機会は少なく、ましてや「経営者」と知り合うことは不可能に近い。「オープンな空間でフランクな雰囲気」で話が出来たことは学生の価値観を変えたと思われる。

・価値観とは「大手企業でなければならない」という先入観の破壊である。「安定」はここ数年学生のキーワードになっているが、「安定している中小企業の存在」を知らなかった学生も多く、それを経営者の言葉でわかりやすく伝えたことが、理解を深めたと思われる。また、人文科学系の本学の学生は経済のことをよく知らず、新聞やニュースを見る機会も少ない。今回参加された企業は全て業界がバラバラである。その数だけ、業界と会社を知ることが出来たと言ってもいいだろう。

・今回は業界や企業説明というより「働く論」を語っていただいたが、ランド形式ゆえ時間が短かった。その中でも質問力のある学生は率先して質問していたが、挙手する積極性がなかった学生はそのことを悔やんでいた。これは本学だけの傾向ではないかもしれないが、挙手する積極性のある学生とそうでない学生の差が二極化して顕著に表れた。

・次年度の課題としては、地域という大きな括りではなく、企業という小さな括りで共同展開することが望ましいと思われる。昨年度、今年度は全道の地域から企業を選出、本学において座談会形式のイベントを開催したが、どうしても学生が受け身になってしまう感は否めない。企業とのコラボレーションで何かをなし得ることにより、年間を通した実績を上げることが出来る。例えばゼミ単位で動くというのもひとつの

手段である。

2　企業と大学の意見交換会

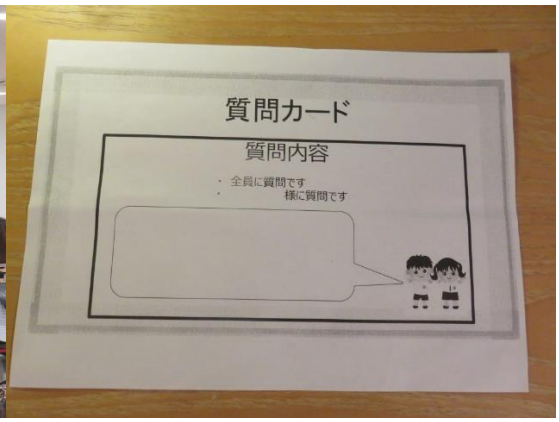
今年度初めて開催した試みであるが「ビジネス界から講師を派遣し、リアルな実社会に
ついて直接話す機会を設けてはどうか」「若手社員の定着以前に採用時に学生が集まらない」「インターンシップを欧米のように選考を意識した内容にしてはどうか」「昨今の新入社員は学ぶ姿勢に欠ける」「留学生をもっと地域貢献に還元させてはどうか」「定員を満たしていない学部学科についてどうお考えか」等々、俯瞰的に大学教育および本学を見た斬新な意見が飛び交った。

3　青森県市場調査

青森商工会議所、青森県中小企業家同友会、ジョブカフェあおもりの三団体もあらゆる
手を講じてきたが、これといった打開策は出せずにいる。青森市は支店が多い「支店経
済」のため、決して求人が多いとはいえず、八戸市はメーカーが多いため、理系が優遇
される地域である。そもそも二桁の学生を採用出来る体力のある企業は、青森銀行、み
ちのく銀行、吉田産業（建設資材）、ユニバース（スーパー）、一部報道機関程度しかな
い。あとは市役所や県警になるが、もともと大きな会社が存在していないというハンデ
を背負っている。学生が U ターンして来ない理由もそこにあるのかもしれない。しかし、中小企業でも経営者の意識が高い企業は存在すると思われるので、そのような企業を開拓していくのが得策であろう。また、ジョブカフェあおもりと緩やかな提携を試み、密な情報共有をしていくのが、本学における青森県出身学生への最善なフォローになると思われる。

2016 年 7 月 15 日（金）前期・社会人講座

2016 年 12 月 9 日（金）後期・社会人講座

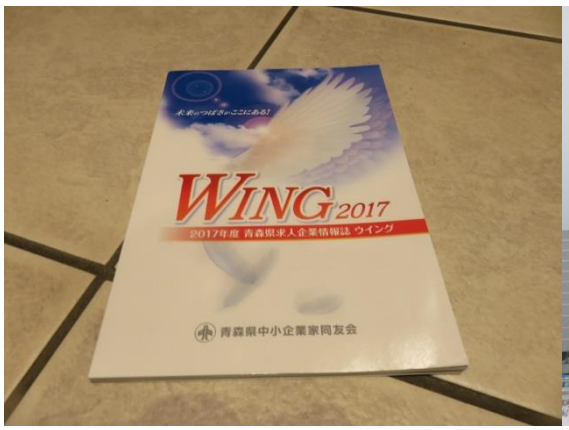


2016 年 3 月 1 日（水）企業と大学の意見交換会

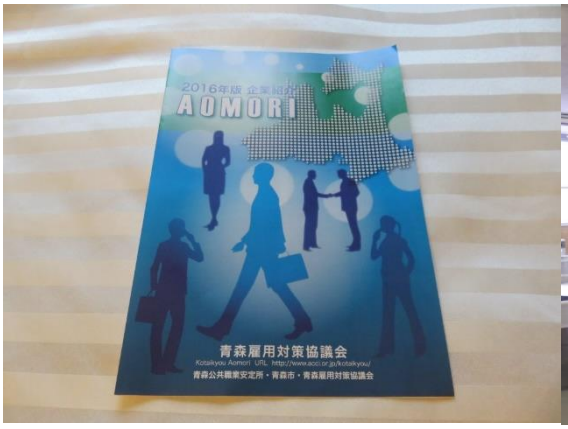
2017 年 3 月 8 日（水）～9 日（木）青森県市場調査

① 青森県中小企業家同友会

② ジョブカフェあおもり



③　青森商工会議所連合会



④　青森銀行　⑤みちのく銀行

以上